

神戸市会「1増1減」案

総定数削減の対案も

来春の統一地方選で予定される市議選に向け、定数の見直し議論に入った神戸市会。11日に開かれた所属議員5人以上の会派による

※1999年と2011年は変更なし

定数増

定数減

	1995年	2003年	07年	15年	19年
東灘区	9	9	9	9	10?
灘区					6
中央区	6	6	5	6	6
兵庫区	6	6	5	5	5
北区					10
長田区	7	6	5	5	4?
須磨区	9	9	8	7	7
垂水区	11	11	10	10	10
西区	8	9	11	11	11
合計	72	72	69	69	69

神戸市会の選挙区別の定数

代表者会議では、総定数69を維持し、東灘区の定数を1増の「10」、長田区は1減の「4」とする方向で協議が始まったが、一部会派からは総定数を65とする案も示された。

市内9区の各定数は、直近の国勢調査の人口をもとに比例配分するよう公選法で定められている。2015年10月調査の各区別の人口から定数を算出した結果、東灘、長田区で「1増1減」とする調整の必要性が浮上している。この日の代表者会議ではこういった状況が紹介され、各会派が持ち帰って意見をまとめ、次回22日の会で議論される。

日本維新の会は「区別の定数調整より前に総定数を4削減」という内容の要請書を議長に提出した。同会は、同規模の福岡、川崎両市における議員1人当たりの人口が神戸市より多いと指摘。昨年の自民党系会派の政務活動費不正流用事件で議会不信が広がっていることから、定数69から4人減らすことを主張している。

市選挙管理委員会によると、前回15年の選挙では、東灘区は定数9に16人が立候補、長田区は定数5に6人が立候補した。長田区選出のある議員は「人口比でそうなるのは一定理解できるが、区の代表をそこまで少なくしていいのかという思いはある。選挙は厳しいものになるだろう」と話した。

(霍見真一郎)